さんにち NIE ワークシート　　山梨日日新聞

年　　組　名前：

ひきこもり「分身」が相談

仮想空間に窓口開設へ

甲府市が県内初

甲府市は、ひきこもり当事者の支援に向け、インターネット上の仮想空間「メタバース」を活用した相談窓口を開設する方針を固めた。当事者はアバター（分身）を通して専門の職員に相談する。対面での相談に抵抗感がある当事者もいることから、相談へのハードルを下げ、早期に必要な支援につなげるのが狙い。市精神保健課によると、メタバースを活用したひきこもり対策は県内では初めて。〈杉原みずき〉

相談窓口は9月をめどにスタートし、週1回程度開設する予定。専門の職員が1対1で相談に応じる。関連事業費123万円を、13日に開会する6月定例市議会に提出する一般会計補正予算案に計上している。

市は現在、精神保健福祉士や公認心理師らの専門職が、対面や電話でひきこもりの相談に対応しているが、相談を寄せてくるのは当事者の家族らが中心。当事者との接点を持てないケースも多く、当事者が抱える困り事や求める支援を把握するのが難しかったという。

市が支援しているケースでは、20～40代を中心にオンラインゲームを利用しているとみられる当事者もいることから、メタバースに着目。相談の場を増やして当事者のニーズを把握し、長期化が懸念されるひきこもりへの早期支援につなげたい考え。

家族らから相談が寄せられ、市がひきこもり状態と判断したのは昨年度末時点で77人。課の担当者は「相談の機会を増やし、当事者の孤独感の解消に向けた支援を行いたい」と話している。

（2023 年 6 月 6 日付 山梨日日新聞 15 面）

問1

甲府市が開設する方針を固めた、ひきこもり当事者の相談窓口は、何を活用した方法で行いますか。

問2

甲府市が、この方法を取り入れることによる利点を、答えてください。

問3

あなたは、「ひきこもり」がなくなるために、何をしていけば良いと考えますか。

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2023 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.